

男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

Q30 「繋がりが生み出す新しい子育てのカタチ」とは、どのような子育てをすることでしょうか。

A30 子どもをとり巻く「家庭」「学校」「社会（地域・職域）」という環境が変化し、子育ての「孤立化」が課題となっています。

子どもの「育ち」には、「他者」との「出会い」が必要であり、そのためには、「つながり」を創り出す「ガイド」としての大人の役割が必要であります。「孤立する子育て」から、子どもを総がかり（家庭+学校+地域社会）で育てる、「育て合う社会」に向かうことが重要であります。

同じ図柄が人によって違う見え方をする「だまし絵」があることでわかるように、人にはそれぞれものの見方の癖があります。他者を理解するにはものの見方を柔軟にすることが必要であり、子どもは大人とは違う目線で物を見ています。子どもに接する際には、向かい合うのではなく、同じ目線に立ち、共感して理解しようとする「共視」という考え方が大切であります。



自治体・企業・NPOという、「それぞれの見方をする人達」が共通の「目標」を持ち、「一緒にやっっていく＝繋がる」ことで、チームワークやネットワークが生まれます。「子育て支援」といいますと、CSRや福利・厚生、ボランティアの例が多いですが、「それぞれの見方」の多様性を認め、収益性のある企業活動としての領域でもまだまだ可能性があります。

最後に、「大人にとっての子育ての意味」ですが、大人も、子育てを通して様々な「つながり」を持つことができます。子育てが新しい出会いを創り出すこと

で自分自身の「成長」や「生きがい」にもなりますし、「子育て」を通じて、地域のコミュニティや社会が活性化し、住みやすい環境を自分たちで整備することに繋がっ
ていくと思います。

